

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	法学（社会選択）	
科目基礎情報							
科目番号		0113		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		総合科学科		対象学年	5		
開設期		前期・後期		週時間数	4		
教科書/教材		「民法」、小川富之著、八千代出版					
担当教員		廣瀬 孝壽					
到達目標							
1. 基礎的な法の特性を理解できる。 2. 具体的な問題を法的に説明することができる。 3. 法の目的を理解し、公正な社会について考えることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基礎的な法の特性を十分に理解できる。		基礎的な法の特性をほぼ理解できる。		基礎的な法の特性を理解できない。		
評価項目2	具体的な問題を法的に十分に説明することができる。		具体的な問題を法的にほぼ説明することができる。		具体的な問題を法的に説明することができない。		
評価項目3	法の目的を理解し、公正な社会について十分に考えることができる。		法の目的を理解し、公正な社会についてほぼ考えることができる。		法の目的を理解し、公正な社会について考えることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程の教育目標 F② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。 準学士課程の教育目標 F③ 技術者としての役割と責任を認識できる。 準学士課程の教育目標 G① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。 準学士課程の教育目標 G② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。							
教育方法等							
概要		社会生活と法との関係を理解し、法が形成された歴史的意義を学習する。具体的問題の法的な解決手段を考え、問題点を探し、より良い社会にするために必要な法のあり方を積極的に考える。					
授業の進め方・方法		具体的事件を取り上げ、関連する法概念を解説するので、より良い解決策を考えること。法律の条文は膨大であり、また、法改正によって変化し続けるものであるため、教えてもらうという意識よりも、法的に思考できる社会人になることを意識して学習すること。					
注意点							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル 授業週
評価割合							
			試験	レポートなど		合計	
総合評価割合			80	20		100	
基礎的能力			80	20		100	
専門的能力			0	0		0	
分野横断的能力			0	0		0	